

システム設計書のミスを減らす 成功事例 5 選

SI Object Browser Designer 導入事例集

設計書の作成を効率化し、生産性を向上させる実例

INDEX

株式会社 JP 情報センター

株式会社 JSP

NOK 株式会社

渡辺電機工業株式会社

株式会社システムインテグレータ



株式会社 JP 情報センター 様

ソースコードジェネレータにはない良さがある



事例のポイント

導入の決め手は「習熟のしやすさ」「ベンダーロックがないこと」「社内システムと連携できること」

フレームワークに沿って設計できるので、設計経験の少ない社員でも利用できる

紙業界のIT戦略のシンクタンクとして、お客様ビジネス直結のシステムを提供している JP 情報センター様に 2015 年 3 月に SI Object Browser Designer（以下、OB デザイナー）を採用いただきました。導入にあたっての背景や、現在の利用状況についてお話をお伺いしました。

株式会社 JP 情報センターについて

株式会社 JP 情報センター様（以下、JPIC）は、36 年前に日本紙パルプ商事株式会社の情報処理部門が独立した企業です。紙卸売業システム「PROTS（プロッツ）」、物流統合システム「DTOS（ディートス）」を中心に、全国 200 社、1200 セット以上の導入実績を持つ、紙業界のデファクトスタンダードシステムを開発・販売されているシステムベンダー様です。

導入に至る背景

JPIC では、物流統合システム「DTOS」のバージョンアップで OS や開発言語のオープンソース化という大幅なプラットフォーム移行を実施されています。それに併せ、設計書の見直しも議題に挙がったことが採用のきっかけでした。「もともとの設計書は詳細な記述がないものもあり、項目間の不整合が起きやすいなどの問題がありましたが、パッケージの規模的に 1 からつくりなおすことは難しい状況でした。そこで良いツールがないか探していたところ、上司に OB デザイナーを紹介されました。」と新井氏は当初の状況を振り返ります。その後、採用いただくにあたり、新井氏が評価したポイントは以下の 3 点でした。



OB デザイナーを導入した理由①：習熟がスムーズであったこと

最も重要視したのは「習熟の容易さ」と新井氏は話してくれました。「他社製品の話ですが、以前、あるソースコードジェネレータ（ソースコード自動生成ツール）を導入検証したことがありました。ソースコードジェネレータはプログラミング知識がない人でもアプリケーションが作れることが魅力ですが、独自の関数やフレームワークを理解する必要があったこと、また、やりたいことを実現できても、その操作に違和感を覚えたため、導入は難しいと判断しました。その後、OB デザイナーを検証しましたが、そのような問題がなかったことから採用しました。

OB デザイナーも先にテーブル設計をしてから帳票の各項目と関連付けるなど、決められた手順に沿って操作する必要があります。しかし、基本的には外部設計⇒内部設計という段階的設計の考えに準拠していますので、そうだね、と納得できます。」SI 社も設計者目線で、いかに使いやすいかを心掛けて OB デザイナーを開発しました。

OB デザイナーを導入した理由②：ベンダーロックがないこと

続けて、新井氏はリスクの観点からも OB デザイナーの優位性を語ってくれました。「私が検証したソースコードジェネレータは、仮に保守を継続しなかった場合、専用の GUI 画面が利用できなくなることから、メンテナンスが実質不可となる「ベンダーロック」の懸念がありました。一方、OB デザイナーのアウトプットは Excel です。仮に継続利用が難しくなったとしても、Excel 運用に切り替えることができると考えました。」

OB デザイナーを導入した理由③：社内システムと連携できること

また、データベースから情報抽出方法をアドバイスする「データベース情報公開サービス」も採用理由でした。「JPIC には顧客ごとの提供バージョンを管理する変更管理システムがあります。OB デザイナーと連携すれば、より管理が強化できると考えました。」設計修正時に提供対象の顧客がすぐに把握できるようにすることで、保守作業も効率化したいと新井氏は話されていました。

現在の導入状況・見えてきた効果

JPIC では現在移行を開始したばかりの状況ですが、はじめに設計書移行のガイドラインを策定する方向で進めているとのこと。「特に、帳票の出力画面および帳票用のデータの抽出プログラム、出力される帳票の関連付け部分については設計の工夫が必要と感じていますので、移行方針をしっかりと固めたいと考えています。」SI 社でも、設計書を OB デザイナーに移行の前には、旧設計書からの移し方を詳細なドキュメントにまとめて実施しました。はじめに厳格な移行ルールを決めることは大変でしたが、品質を高くする上でベストプラクティスだったと実感しています。

一方、プログラムと関連がない帳票などは設計開始いただいているとのことでしたが、「OB デザイナーの利用者の中には設計書の作成経験があまりない社員もいますが、画面のタブ順序に沿って入力することで設計できる点、関連付けはプルダウン選択できることからスムーズに作業が進められています。」と、経験に依存せず設計できる点を実感いただいていた。

今後の展望

最後に、漸井氏に今後の予定を教えてくださいました。「ある程度設計データが入力できれば、社内の変更管理システムと OB デザイナーのデータベース連携をしたいと思っています。また、DTOS で効果が見えれば、紙卸売業システム「PROTS（プロッツ）」への展開もしていきたいと考えています。」と積極的な社内展開を計画されていました。OB デザイナーはドメイン機能に代表される「ノウハウ蓄積」の機能があります。より多くのシステムで導入し、ノウハウを共有することで、設計のさらなる加速が可能となります。社内展開を実現することで、JPIC のパッケージビジネスはさらに飛躍することでしょう。

掲載している企業情報および記事内容は、取材時（2015 年 5 月）のものです。



株式会社 JSP 様

"信用"できるソフトウェア仕様書づくりを



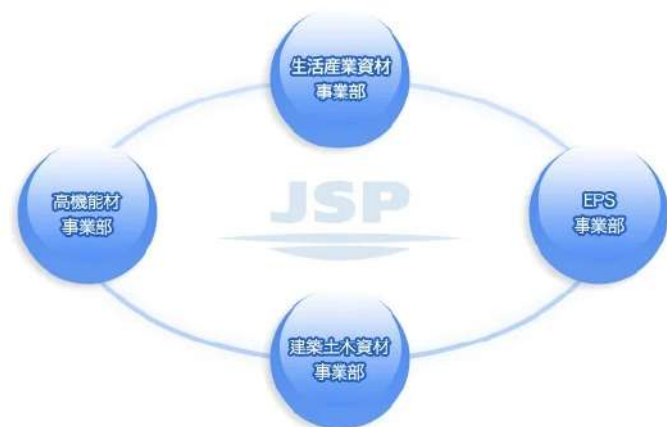
事例のポイント

導入の決め手は「習熟のしやすさ」「ベンダーロックがないこと」「社内システムと連携できること」

フレームワークに沿って設計できるので、設計経験の少ない社員でも利用できる

発泡プラスチックの国内 No.1 の販売実績を持つ株式会社 JSP 様では、グループ会社も含む多くの社内システムを内製されています。その設計ツールとして 2016 年 7 月に SI Object Browser Designer (以下、OB デザイナー) を導入いただきました。導入にあたっての背景や、評価したポイントをお伺いしました。

株式会社 JSP について



株式会社 JSP 様 (以下、JSP) は発泡プラスチックの総合メーカーとして、食品包材などの「生活産業資材」、耐震・断熱用の「建築土木資材」、自動車用緩衝材などの「高機能材」、家電製品緩衝材など「EPS」の 4 事業で発砲製品を製造する企業です。国内に 9 社、北米、南米、ヨーロッパ、アジアに 28 社の子会社を展開し、ワールドワイドに活動しています。

OB デザイナー 導入に至る背景

同社のシステム企画・開発グループでは、グループ会社も含めた社内システムを開発・改修しています。しかし、その設計工程に際して長年の課題を抱えていました。「仕様書の更新をきちんとしておらず、どれが最新の仕様かわからない状態になっていました。いざシステムを改修することになって、ソースコードを直接検索して調査しているのが実情でした。」と長屋さんは当時の状況を振り返ります。システム企画・開発グループに OB デザイナーを紹介したのは 2016 年 7 月でしたが、同月に導入いただきました。即導入を決めた理由を長屋さんは次のように話してくれました。

「OB デザイナーのデモをみせていただいたときに、長年の問題が解決できると思いました。OB デザイナーはバージョン管理機能が標準で搭載されていますので、仕様書をいつ・誰が・何を変更したのが、いつでも把握できるようになります。ちょうどシステムをリプレイスするタイミングでしたので、すぐに導入することを決めました。」長屋さんにはその後、評価版でも検証をいただきましたが、その他に重要視していたポイントは次の 2 点でした。

OB デザイナーを導入した理由①：DB 設計情報と連携できること

1 つは DB 設計⇒画面設計がスムーズに連携できる点です。システム企画・開発グループが改修する社内システムでは、マスタなどのエンティティが変わることは日常茶飯事のため、いかに手間をかけず、エンティティの修正部分を画面項目に反映できるかが重要とのことでした。OB デザイナーは、データベース設計ツール『SI Object Browser ER』で設計したエンティティ設計図を取り込むことができ、その後は、プルダウン形式で画面項目と DB 項目のマッピングができます。また、後ほどカラム名の変更があっても、マッピング情報が自動で修正されます。長屋さんにはこの点を高く評価いただきました。その他にも、画面のレイアウトと画面項目、画面項目とロジックなどが連動していますので、修正があれば、漏れなく関連箇所も同時反映されるようになっています。この点は設計ツールならではの機能ではないでしょうか。

OB デザイナーを導入した理由②：自社の設計文化と合ったこと

また、「自社の設計思想」に合っているかも評価のポイントでした。JSP でもともと作成していた仕様書には、あまり細かな記述は書いていなかったそうです。「仕様書は、開発する人が画面やバッチの仕様をなんとなく把握できるものでよい」が長屋様の思想です。その理由はあまり細かすぎてもメンテナンスができなくなるためです。



OB デザイナーもこの思想は同じでした。例えばロジック設計ではパラメータやテーブルなど”インタフェース”レベルの記述となり、細かなアルゴリズムの入力は不要です。そのため、違和感はなかったとのことでした。

設計の思想や文化は企業様ごとにバラバラです。場合によっては現状の設計書から情報を落とさないと OB デザイナーが導入できないケースもありますが、JSP 様はそのようなギャップがなかったからこそ、即座に導入できたのでしょう。

現在の導入状況・見えてきた効果

システム企画・開発グループでは現在、販売管理システムのリプレースを実施していますが、基本設計フェーズのため、OB デザイナーを本格的には利用していないとのことでした。きちんとエンティティを固めてから、OB デザイナーでデータ入力していく予定とのことでした。

また、8 月には OB デザイナーの「ユーザー教育（操作説明会）」も実施いたしましたので、その感想をお伺いしました。「製品の検証はしていましたが、機能的には問題ない印象ですが、いくつかの運用ルールは必要だと思いました。例えば、ロジックがサブロジック呼び出している場合に、OB デザイナーでもその階層を表現するのか、同じロジックにまとめてしまうのかなどです。」OB デザイナーは専用の入力フレームワークにより、強力に標準化を推進できるツールですが、バージョン変更の取り決めや、既存の設計書をどこまで移すのか等は会社様ごとにルールの取り決めが必要です。ぜひ現場の方を交えて、共通ルール化いただきたいと思います。

今後の展望

最後に今後のスケジュールについてお伺いしました。「現在は販売管理システムでスモールスタートしていますが予算管理、原価計算システムにもマスタが連携しているため、あわせて OB デザイナーを導入予定です。また将来的にはグループ会社のシステムでも展開していきます。」と部や会社で標準化を推進していきたいとのことでした。OB デザイナーは案件単位でも導入できますが、広く展開いただくほど導入効果も高くなります。ぜひ今後グループ企業様で展開を期待しています。

掲載している企業情報および記事内容は、取材時（2016 年 9 月）のものです。

NOK 株式会社 様

ツールの仕様書の出来に満足



事例のポイント

ノンカスタマイズでも実用的な設計書が作成できる
入力画面も定まっていることで、チーム内のレビュー時間も短縮できる

オイルシール国内 No.1 の販売実績を持つ NOK 株式会社は、グループ会社も含み多くの社内システムを内製されています。これらシステムの情報共有のために SI Object Browser Designer（以下、OB デザイナー）を導入いただきました。導入にあたっての背景や、導入効果についてお話を聞きました。

NOK 株式会社について

NOK 株式会社（以下、NOK）は自動車のオイル漏れを防ぐ部品である「オイルシール」の開発メーカーとして 1939 年に誕生しました。創業以来培ってきた技術力とノウハウでオイルシール国内 No.1 のメーカーに成長、現在はフレキシブルプリント基板などの電子機器部品、複写機に使用されるロールなど、多種の製造を行うなど、自動車業界にとどまらず、様々な領域で活躍されている企業です。

OB デザイナー導入に至る背景

NOK は現在、企業単体で 3,000 人、アメリカやアジア等の海外拠点を含むグループ企業全体で 46,000 人を超える大企業です。人事システム課の松原さんは、この内、国内グループ 8,000 人分の考課・査定システムや人事情報検索システム等を、ほぼ 1 人で開発・メンテナンスされていました。松原さんの高い技術力があるからできるのですが、反面「自分しかシステム仕様を把握していないことは問題」と感じていました。組織ができて部下が増えても、メンバーが設計書を全く作っていなかったため、引継ぎもできませんでした。

これらの問題解決のため、現状社内システムを他社パッケージへのリプレイスを検討しましたが、ギャップが多かったためツール採用を諦めかけていました。

「結局、一から設計書をつくるしかない。しかし、Excel でつくるには労力がかかる。何かよい設計ツールはないだろうか？」松原さんがそう考えた

時に見つけたツールが、OB デザイナーでした。

OB デザイナー導入の際は無償で一定期間でご利用いただける評価版を提供し、検証いただきますが、松原さんは評価版を使わず導入することを決断しました。その理由は「他に設計書作成に特化したツールがなかったこと、また、部門予算で買える価格だったこと」です。

OB デザイナーを導入後、人事給与システムの設計書作りから始めた松原さんでしたが、いきなり使ってみての感想はいかがだったのでしょうか？ 高く評価いただいたポイントは以下の 2 点でした。

OB デザイナーの良い点①：設計書がそのまま使える

一番高く評価いただいた点は、OB デザイナーが提供する設計書フォーマットでした。「一部の社内システムは委託開発しているものもありましたので、当初は委託先にいただいた設計書の中から良いフォーマットを採用しようと思っていました。

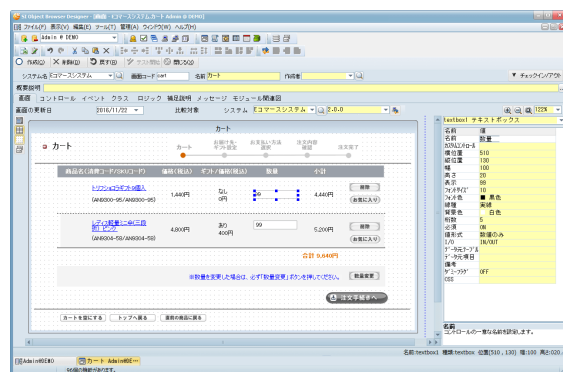
しかし、いざ検討すると、情報過多で採用が難しいのです。その点、OB デザイナーの標準フォーマットは必要な情報だけに絞られており、非常に見やすかったので、こちらをベースにすることにしました。

結果的には、ほぼノンカスタマイズで当社の標準フォーマットにすることができました」と採用の経緯を詳しく教えていただきました。OB デザイナーではフォーマットをカスタマイズすることも可能ですが、標準でもクラサバ・Webなどを問わない汎用フォーマットとなっています。松原さんにもこの点を高く評価しています。

OB デザイナーの良い点②：レビュー時間が短縮できる

また、OB デザイナーで入力が統一できる点も評価いただきました。

現在は人事情報検索システムの設計書をチーム分担で作成していますが、もし Excel で行っていたなら、書き方はバラバラだっただろうと言います。OB デザイナーは入力画面が定まっているため、その心配がありません。「設計レビューの時も、コード体系などの簡単なチェックだけで済みました」と、設計品質が保証できる点にも満足いただいていたいました。



OB デザイナーの設計画面

画面⇒コントロール⇒イベントとタブの順に
情報を入れていくことで、同じ品質で設計できる

操作の習熟は必要

設計書や入力の特準化ができる点に満足いただいた松原さんですが、「当初は操作でいくつか迷う点があった」とご指摘を受けました。

項目的拡張方法や、OB デザイナーの入力画面とアウトプットである設計書との対応関係がわからず、戸惑うことがあったようです。これらの不明点は、弊社のサポートに都度お問い合わせいただきながら徐々にマスターし、現在はスムーズにご利用できているとのことだす。

OB デザイナーは標準化、品質向上が図れる設計専用ツールですが、従来の Excel/Word の設計運用より効果を出すためには、いち早く操作方法を身につけることが重要だす。SI 社では、これらを支援するサポートサービスの他、早期習熟のためのユーザー教育をご用意していますので、今後導入されるユーザー様はぜひこれらサービスの活用もいただきたいと思ひます。

今後の展望について

最後に今後のスケジュールについて伺ひしました。「現在は人事情報検索システムを中心にチームで設計データをインプットしていますが、将来的には考課・査定システム、賃金シミュレーションシステム等の内製システムすべてに適用する」そうです。「設計書を整備することでチーム全体でシステムの仕様把握を可能にすること」が NOK の導入目的だす。OB デザイナーには串刺し検索や、共通設計部分をテンプレート化するドメイン機能、影響範囲を調べるクロスリファレンス機能などのメンテナンスコストを削減する機能も搭載されています。これらの機能も活用いただき、期待以上の効果を感じていただけるよう弊社もサポートしてまいります。

掲載している企業情報および記事内容は、取材時（2016 年 10 月）のものです。

watanabe 渡辺電機工業株式会社

渡辺電機工業株式会社 様

設計未経験者にこそ使ってほしいツール



事例のポイント

設計未経験者にとっては、”設計ノウハウ”が手に入ることが一番のメリット

SI社のユーザー教育サービスが良かった！不明点だけでなく、運用方法もアドバイスをくれる

計測専門メーカーである渡辺電機工業では、現在、製造工場のIT化を進めています。情報システムグループでは新規開発のため、SI Object Browser Designer（以下、OBデザイナー）を導入いただきました。導入にあたっての背景や、導入効果について詳しいお話を聞きました。

渡辺電機工業について

渡辺電機工業は信号変換器やアナログ/デジタルパネルメータ等の製造・販売する計測機器専門のメーカー様です。

1940年の創業から長年培った計測技術をベースに、エレクトロニクス技術、ソフトウェア技術を組み合わせたオリジナル計測機器を数多く製造されています。

全国や販売ネットワークを持ち、国内やアジアを中心に広く販売されている計測機器の老舗メーカー様です。



OBデザイナー導入に至る背景



情報システムグループ 那須様

渡辺電機工業では昨年より製造工場のITシステム導入による近代化に取り組んでいます。調布と福島にある製造工場のうち、調布工場については順調にシステム開発が進んでいましたが、福島工場についてはなかなかうまく進みませんでした。

「調布工場についてはシステム開発専門部署が担当することになりました。調布工場の進捗は順調でしたが、福島工場は人員が足りず、着手もできない状況でした。それなら我々の情

報システムグループでやるしかないと考えましたが、我々の部署では新規システムの設計経験がないことが大きな障害となりました」と那須様は当時の状況を振り返ります。製造工程については協力会社に委託することもできますが、設計工程に関しては自社製品に関わる部分のため、自社の者でないと実施は難しい…そのような課題を抱えていた時、当社よりOBデザイナーを紹介を受けたことが導入のきっかけでした。

那須様はOBデザイナーの紹介デモを見た際、すぐに導入することを決めたそうです。OBデザイナーはExcelやWord等の設計経験者向けのツールですが、那須様が採用を決めた理由は何だったのでしょうか？主な理由は以下の2点でした。

OBデザイナーの良い点①：設計のガイドラインになる

一番高く評価いただいた点は、OBデザイナーが提供するフレームワーク（設計情報の入力画面）でした。「私たち情報グループは社内システムのメンテナンスを行う部署ですので、設計書の新規作成の経験はほとんどありません。そのため、設計書はどのような構成で、どのようなことを書くべきかわかりませんでした。その点、OBデザイナーはレイアウト、項目、イベントなどがタブ単位で区切られており、順に入力していくだけで設計書が出来上がる仕組みになっており、テーブルやイベントなどの項目もプルダウン選択でできます。これなら、私たちでも設計できると思いました」と簡単に設計できる点が一番の導入理由でした。

OBデザイナーは画面レイアウトはマウス操作形式、項目定義は表形式など専用の入力画面を提供しますので、設計の経験に関係なく、統一した設計書がつけれることが特徴です。那須様にはこの点を最も高く評価いただきました。

OBデザイナーの良い点②：レビュー時間が短縮できる



ユーザー教育実施中の様子。実機形式でマスタの設定方法から設計書の作り方までを説明。また、運用方法についてもアドバイスしている。

また、データベースで設計情報が一元管理できる点も採用理由でした。「情報システムグループでもドキュメントサーバーでも前者のExcel設計書の管理を行っていますが、いつの間にか場所が変わっていたり、誰がつくったかわからないファイルがあったりなどの問題はありました。

その点、OBデザイナーはデータベースで管理でき、自動で変更管理もできるので、ドキュメントの整理が楽になることも魅力でした。」と管理面のコストメリットも評価いただいていた。

不明点・運用はユーザー教育で解決

では、導入後の感触についてはいかがだったのでしょうか。OB デザイナーをメインでご利用いただいている同部の菅野様にお伺いしたところ、「説明なしでは理解できない部分もあった」もあったとのことでした。「テーブルや画面レイアウト、コントロール等は作成できましたが、イベントタブでのロジックとのリンク方法や、パッチの作り方についてはイメージが沸かず、設計が進まない時期もありました。」しかし、導入後ユーザー教育サービスを受講することでこれらの不明点も解決したとのことでした。「受講を終えて、もやもやしていた部分がスッキリしました。カスタムコントロールなど便利な機能も教えていただきましたので、今後活用したいと思っています」と高い評価をいただきました。

設計の文化や OB デザイナーを導入する理由は各会社様ごとによりバラバラです。そこで、ユーザー教育では長めに時間を設け、運用方法についてもアドバイスをしています。今後、導入を検討される方は、ぜひユーザー教育も一緒に導入されてはいかがでしょうか。

今後の展望について

現在は福島工場で製造している製品の自動検査システムを設計しており、来年秋頃にカットオーバーを目指しています。

また、将来的には開発部署等への展開もしていきたいとお聞きました。OB デザイナーはデータベースを使って設計を一元管理できる点が特徴です。対象システムも多いほどより効果を出せますので、広く普及できるよう当社でも支援して参ります。

掲載している企業情報および記事内容は、取材時（2017 年 7 月）のものです。

株式会社システムインテグレータ

"IT 業界の CAD" でソフトウェア設計を合理化する



事例のポイント

OB デザイナーはソースコードジェネレータと異なり、最低限の入力で「実用的」な設計書ができる

既存設計書から OB デザイナーへの移行においては「移行方針」を固めることが重要

OB デザイナーは大規模ウォーターフォール案件だけでなく、アジャイル案件でも活用できる

「SI Object Browser」シリーズを開発販売するシステムインテグレータでは、社長自らが製品の企画・プロデュースを行っています。社長の梅田に SI Object Browser Designer（以下、OB デザイナー）誕生の背景、また本格的に社内導入チームした「GRANDIT 生産管理アドオンチーム」に導入状況をお伺いしました。

OB デザイナーは「IT 業界の CAD」



まず、梅田に企画の背景を教えてくださいました。

「ソフトウェア業界では、開発の合理化・近代化のため積極的にソフトウェアを導入して合理化をしています。

しかし、設計工程に関してはそれが不十分と感じます。建築や工業の世界では専用の CAD ツールを使っているのに、我々 IT 業界ではいまだに Excel や Word などのワープロソフトで非効率な設計書作成を行っています。

この課題を解決したいと思って開発した製品が OB デザイナーです。」IT 業界でも昔から 4GL や CASE ツール、最近ではソースコードジェネレータなどのツールが登場していますが、「どれも普及されていないのが実情」と梅田は言います。その理由を 2 つ述べてくれました。

ソースコードジェネレータが普及しない理由①：
「入力が膨大であること」

ソースコードジェネレータは細かなアルゴリズムや変数定義など、本来、プログラムの裁量に任せられる部分まで設計者が定義しなければならず、逆に設計作業の効率が悪くなります。

ソースコードジェネレータが普及しない理由②：
「実用的なソースが出せないこと」

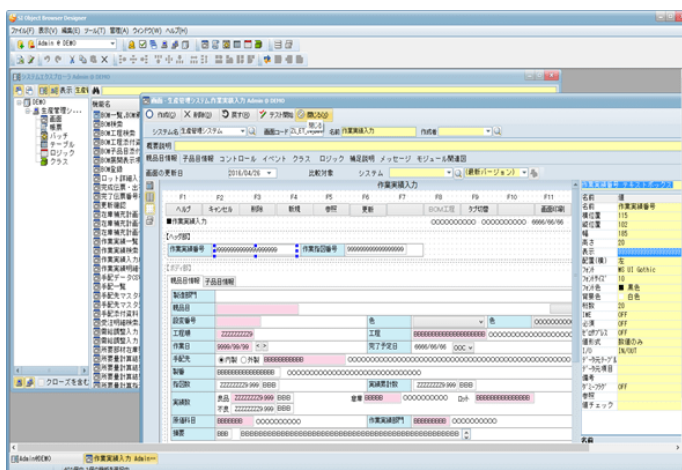
そのまま業務アプリケーションとして使えるレベルのソースコード自動生成は難しく、カスタマイズが前提となっています。ユーザーは、「それならすべて自分で作ってしまおう」と思ってしまうのではないのでしょうか。OB デザイナーはこれらの問題点を解決するために、発想を変えました。「設計をシステム化したらコードまで生成できる」は難しくても、「設計をシステム化して設計書を生成する」なら可能です。通常、プログラミング作業より設計作業の方に工数がかかるので、これだけでも大幅にコスト削減や設計品質向上ができます。」と梅田は熱く語ってくれました。

社内導入の苦労話

「OB デザイナーに限らず、開発したものは自社導入し、フィードバック⇒改善するアプローチをとっています。ときにはトップダウンで導入させることもあります。」これは梅田のポリシーであり、システムインテグレータ社の文化です。

OB デザイナーを社内導入している「GRANDIT 生産管理アドオンモジュール（以下、生産管理アドオン）」では、既に Excel の設計書が数百あったため、オフショアで OB デザイナー移行を実施しました。

しかし、移行方針にするルールを厳格に決めていなかったことに大変な苦労がありました。具体的には共通で使われているプログラムを個別のロジックとして移行してしまっていたこと、ストアドのパラメータなどの標準フォームに入れるべき項目を補足説明（Excel 入力欄）に書いていたことなどが挙げられます。特にロジックデータの移行の際にルール決めが重要とのことでした。



生産管理アドオンの設計画面

200 を超える Excel 設計書をオフショアですべて移行した

OB デザイナーに「向く案件」とは

社内で設計工程の改善を目的に導入しましたが、既存設計書の OB デザイナー移行に苦労したのも事実です。そこで、梅田に OB デザイナーを入れてほしい案件・導入メリットが大きい案件はどのような案件なのか聞きました。

「1つは新規案件。既存設計書の移行が必要ない分導入がスムーズです。もう1つは大規模であること。建築業界の CAD ソフトで犬小屋も設計できますが、そのために CAD を使う人はいませんね。それと同じで、小規模なシステムで無理やり OB デザイナーを入れる必要はないでしょう。」

最近では、設計書をほとんど作らず製造から着手したり、完成した画面をはりつけて後付けの設計書を作るアジャイル型の案件も増えてきています。このような案件で OB デザイナーの導入は難しいのでしょうか？

「設計書を作らない運用となったのも、良い設計ツールがなかったから」と梅田は断言します。アジャイル型の案件でも品質の良い設計が必要であることは同じであり、「OB デザイナーを使って設計することでメリットを出せる」と自信をもって答えていました。

当社でも、スマホアプリである花の名前ダウトや SOCS などのパッケージでは OB デザイナーも使ったアジャイル開発も取り入れていますので、積極的に展開しています。これらの運用事例は、今後導入を検討するお客様の参考になることでしょう。

今後のロードマップ

最後に、梅田に今後のバージョンアップ予定を伺いました。「ツールはまず好きになってもらえることが重要。そのために使い勝手をもっと良くしたいですね。Word や Excel と比べて使い勝手が良くなれば、一元管理による串刺し検索や、バージョン管理などのメリットだけが享受できます。」また、生産管理アドオンチームでは、レポートフォーマットを内向けと外向けで出しわけできる点、Word や Excel ではできない点を高く評価をいただきました。OB デザイナーの導入メリットや機能については Web 連載コラムでも紹介していますので参考にいただければと思います。

掲載している企業情報および記事内容は、取材時（2016 年 7 月）のものです。

SI Object Browser Designer

SI Object Browser Designer

詳しくはシステムインテグレータまで
お問い合わせください。

お問い合わせ窓口

電話番号：03-5768-7695 (平日 9:20~18:00)

Eメール：obdz@sint.co.jp

ホームページ：<https://products.sint.co.jp/obdz>

株式会社システムインテグレータ

<https://www.sint.co.jp/>

システムインテグレータは、
「時間を奪うのではなく、時間を与えるソフトウェアを創り続ける」という
スローガンのもと人々の生活を豊かにするソフトウェアを提供しています。

株式会社システムインテグレータ

詳しい情報はこちらをご覧ください。

<http://products.sint.co.jp/obdz>

© 株式会社システムインテグレータ All rights reserved.

記載事項は、予告なく変更される場合があります。内容の一部または全部を 株式会社システムインテグレータの許可なく使用・複製することはできません。株式会社システムインテグレータ、システムインテグレータ ロゴは、日本およびその他の国における株式会社システムインテグレータの登録商標です。その他の社名やブランドまたは製品は、それぞれを保有する各社の商標または登録商標です。